
豚の貯金箱

Y - m a

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

豚の貯金箱

【Nコード】

N2957Z

【作者名】

Y - m a

【あらすじ】

解離性の障害を持つ男は、リハビリも兼ねて豚の貯金箱に硬貨を貯めることにした

何か粉々に砕けた物質…そこに銀色の硬貨が紛れていた

「なんだ…まだ１００円しか貯まっていなかったのか」

私には解離性の障害がある

昨日買ってきた豚の貯金箱に手始めの１００円を投入しておいた。
私はそれを子供のように割って、今まさにがっかりしているところ
だ…

豚の貯金箱は１ヶ１００円と因果なものを感じる

私は洪々、その100円を拾い、また同じ豚の貯金箱を買った

そこにまた手始めの100円を投入するわけだが

また次の日には同じ光景を目にする

何か粉々に砕けた物質…そこに銀色の硬貨が紛れていた

「ああ…私の頭はどうなってしまったんだ？貯金箱とはお金を貯蓄する道具だろ？叩き割るのは貯金箱を硬貨が満たしきったときばかり

りではないか？ああ…これでは1日に100円無駄遣いしているよ
うなものじゃないか？」

まあ…大した浪費でもなし、必要経費と見れなくもないが…

馬鹿げている

医者から貰った抗うつ剤で、精神は頗る安定しているつもりだが…

この感覚は何なのだろうか？
うつ病を克服できた気にもなっていたのか？

思い上がり、破壊的衝動に駆られていたのか？

私は豚の貯金箱の瓦礫から100円を掘り出し、違うことに使ってみることにした

100円で買えるだけ駄菓子を買うことにした

10円だ20円だと
買ってはみたが…お釣りがでた

4円のお釣りが出た

次の日、何か粉々に砕けた物質…そこに銀色の硬貨が4枚紛れていた

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2957z/>

豚の貯金箱

2011年12月10日14時49分発行